

Ⅱ 2010年度 事業報告 (第2号議案)

(1) 年次大会(第105回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2010」開催報告

実行委員長 杉山高司 実行副委員長 洪博哲 岡建樹

2010年6月9日(水)～11日(金)の3日間、日本画像学会年次大会(通算105回)「Imaging Conference JAPAN 2010」を東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」で開催した。

日本画像学会では、印刷分野を含む多様な用途へ展開されつつある電子写真記録、インクジェット記録、サーマル記録などのハードコピー技術、及び新たな発展が期待できる電子ペーパー、エレクトロニックイメージング技術、更にプリント技術を電子デバイス作製に応用したデジタルファブリケーション技術など、イメージングに関する最先端の技術分野を取り扱っている。

現在、イメージングを取り巻く環境は大きく変わろうとしている。ハードコピーから電子ペーパーのような新しいメディアへの移行とその市場の拡大、MPSのようにシステム全体の最適化を提供するビジネスへの移行、大量少品種から少量多品種でバリエーション印刷可能なデジタル印刷の浸透、デジタルファブリケーションに代表されるイメージング技術の高機能化などである。

本大会では、これらの変化を新世代への移行と捉え、大会コンセプトとして「未来を創る、イメージング技術の新世代へ」を掲げた。その大会コンセプトに沿って、各セッションやイベントを構成した。加えて、移行に伴う課題と解決方法を議論するために、発表者と参加者が共同で課題解決を目指すワークショップを新たに併設し、討論の幅を広げた。

全体として、キーノートスピーチ3件、ビジネスセッション3件、一般技術講演67件、特別セッション1件、展示会11社、併設のワークショップ6件という構成で開催した。

初日は、杉山高司実行委員長(コニカミノルタホールディングス(株)常務執行役)の開会挨拶があり、それに引き続いてキーノートスピーチとして、「マネージド・プリント・サービス(MPS)による出力業務の変革」と題して、お客様の要求の変化に対して機器メーカーとしてどのように対応すべきかという観点で、(株)リコーの染川聡一郎氏から講演があった。

午後には、イメージングを取り巻く市場やビジネスの最新動向にフォーカスしたビジネスセッションを行った。「画像はどこまで進化するか」というセッションテーマのもと、先ず広島国際大学の柳瀬徹夫教授から「画像と感性・何を訴えるか」と題して、感性工学の視点で画像の進化を考察した講演があり、引き続きコニカミノルタBT(株)山崎弘氏から「画像の付加価値を高めることとは？」と題して、特にプロダクションプリント領域に焦点を当てた講演があった。このセッションの最後には、オフィス領域に関して、コクヨ(株)の齊藤敦子氏から「明日のオフィスとプリンティング・知識創造ワークスタイルと情報媒体のこれから」と題した講演があった。

ビジネスセッションと並行して14件のインタラクティブ発表が行われ、ポスターを前にして活発な議論が行われました。コニカミノルタBT(株)伊藤信司郎氏らによる「シミュレーションを用いた電子写真画像の品質評価」がベストポスター賞に選ばれた。

2日目は、(株)印刷博物館の樺山鉦一氏による「世界と人体を画像化すること」と題したキーノートスピーチで開始した。歴史的な画像化の蓄積成果について様々の事例が示された。その後一般技術講演を2箇所の会場で行った。新規イメージング・環境保全、電子写真材料、有機電子材料・デバイス、インクジェット、電子ペーパー、画像評価・画像感性の各セッションで、講

演と活発な討議が行われた。

3日目は、千葉大学の北村孝司教授による「未来を創るノーベルプリンティング技術・ハードコピーの本質を探る」と題したキーノートスピーチで開始した。プリンティング技術の過去と現在を俯瞰した上で将来の方向性を示すという非常に興味深いテーマで、多くの聴衆を集めていた。その後2日目同様に一般技術講演が行われた。画像処理・ネットワーク、ダイレクトマーケティング、電子ペーパー、デジタルファブリケーション、電子写真デバイス、電子写真シミュレーションの各セッションである。

併設したワークショップは、2日目と3日目に次の6件のテーマで開催した。「紙と紙出力のアイデンティティ・電子写真装置をめぐる紙と画像品質の課題」「画像評価関係の標準化動向と新たなニーズ」「明日のオフィスとプリンティング・知識創造ワークスタイルと情報媒体のこれから」「3次元可視化技術で電子写真シミュレーションはどうかかわるか?」「日本におけるプリンテッドエレクトロニクスの実用化加速」「人の感性に訴える画像表現を考える」の6件である。参加者は講師、スタッフ、一般参加者合わせて135名で、1テーマあたり20名前後の少人数で特定の課題に対する活発な意見交換が行われ、今後の指針等が示された。特定の課題について有識者を交えた討論の場を提供したことは、日本画像学会の会員の潜在的ニーズに合致したものであったと思う。今回扱ったテーマの継続的展開、及び新たなテーマの企画立案に期待している。

今回は、日本画像学会が一般社団法人になって初めての年次大会だったが、約450名の多数の参加者があり、各セッションや展示会、懇親会で活発な議論や意見交換を行うことが出来た。また、初めての取組であったワークショップにも予想を上回る参加者があり、日本画像学会の関係している技術領域への関心の高さを再認識することが出来た。

最後に、今回の開催にあたり様々の面でご協力いただいた個人会員、賛助会員の皆様に、実行委員会として心より御礼を申し上げます。今後も、今回のワークショップのような新しい企画を含めて、年次大会を更に皆様にとって価値あるものにしていきたいと考えております。来年度の年次大会へのご協力も、よろしくお願い申し上げます。

プログラムは本稿後半に記載（付録1）。

(2) 総会

2010年6月9日 Imaging Conference JAPAN 2010(ICJ2010)開催初日にきゅりあん（東京・大井町）において法人化後、初となる第53回定時総会を開催した。今回から、Web経由で総会の出席回答および各議案投票を行なうシステムを採用し、従来のハガキによる回答と併用した結果、回答率がアップした。総会は中山会長の挨拶の後、中山会長を議長に選出して議事に入り、以下の議案について提案と報告が行われ、委任状を含み大多数の賛成により承認された。

- ① 2010年度役員候補の承認（第1号議案）
- ② 2009年度事業報告、同収支決算および監査報告の承認（第2号議案、第3号議案）
- ③ 2010年度事業計画および同収支予算の報告（第4号議案）

(3) 2009 年度 日本画像学会表彰

日本画像学会は選奨規定に則り、2009 年度学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会 KM 研究奨励賞、日本画像学会 KM 研究賞および名誉会員の選考を行い、2010 年 6 月 9 日開催の第 53 回定時総会の席上で表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。(敬称略)

<学会賞 (第 17 回) 1 件>

- ・星野勝義 (千葉大学)

<功労賞 (第 17 回) 3 件>

- ・五十嵐 明 (富士フイルム (株))
- ・正道寺 勉 (日本工業大学)
- ・富樫光夫 (旧株パナソニックシステムネットワーク)

<論文賞 (第 24 回) 2 件>

- ① 著者：情野國城 (株式会社アフィット), 平原秀昭 (株式会社アフィット), 小沼崇明 (株式会社アフィット), 吉田一郎 (株式会社アフィット), 海江田省三 (株式会社アフィット)
論文名：「高ガンマ感光体の光減衰と暗減衰のメカニズム」
掲載号：日本画像学会誌 179 号、pp. 152-161
- ② 著者：松坂修二 (京都大学), 白井聖 (京都大学), 細尾康元 (京都大学), 安田正俊 ((有)IMP)
論文名：「振動細管法によるトナーの流動性の評価」
掲載号：日本画像学会誌 179 号、pp. 162-169

<研究奨励賞(第16回)3件>

- ①木内 豊 (富士ゼロックス (株))
「感光体表面に付着した放電生成物の定量化」
Imaging Conference Japan 2009, pp. 71-74
- ②井上 園美 (東海大学)
「紙とディスプレイ間の疲労差の要因分析－手持ち効果の評価－」
Imaging Conference Japan 2009, pp. 41-44
- ③田中里美 (千葉大学、現トッパンフォームス株)
「電子ペーパーを目的としたフタル酸エステル誘導体修飾電極系 EC 素子の発色特性」
Imaging Conference Japan 2009 Fall, pp. 151-154

<日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞 (第 4 回) 1 件>

- 小林範久 (千葉大学)
研究題目：「エレクトロクロミック材料に関する研究」
Imaging Conference Japan 2009 Fall, pp. 154-157

<日本画像学会コニカミノルタ研究賞 (第 5 回) 1 件>

- 井上 園美 (東海大学)
「紙とディスプレイ間の疲労差の要因分析－手持ち効果の評価－」
Imaging Conference Japan 2009, pp. 41-44

<会長特賞 (第 10 回) 2 件>

- 木村正利 (富士ゼロックス株)
今井 力 (株リコー)

<技術賞（第20回）1件>

技術：「1パスフルカラーダイレクトサーマル記録システム（ZINK）の実用化」

アルプス電気株式会社 寺尾博年、星野 久、寒川井伸一、山本寿之、竹内 実

(4) 年次大会(第106回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2010 Fall Meeting」開催報告（関西委員会）

2010年11月25日（金）、メルパルク京都（京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-にて、Imaging Conference Japan 2010 Fall Meetingを開催した。技術賞受賞記念講演1件、一般口頭発表11件、ポスターセッション13件の発表があり、参加者は92名（前年115名80%）であった。プログラムは本稿後半に記載（付録2）。

(5) 評議員会

2011年3月10日に東海大学校友会館（東京・霞が関）において開催し、2010年度事業報告、同財務報告、2011年度事業計画、同財務計画、ICJ2011概要説明と、それぞれの質疑応答を行った。出席者は65名（評議員32名、顧問3名、役員他30名）であった。評議員会終了後、特別講演会、懇親会を行った。

(6) 理事会

・下記に示す日程で年間6回の理事会を開催し、学会運営・活性化に関する諸施策の審議をおこなった。

・2010年

第1回：5月17日（月）午後3時～6時 霞会館

第2回：8月30日（月）午前10時～12時（午後：役員研修会）

富士ゼロック横浜みなとみらい事業所

第3回：10月18日（月）午後3時～6時 TKP新橋ビジネスセンター

第4回：12月14日（火）午後4時～7時 霞会館

・2011年

第5回：2月 9日（木）午後3時～6時 霞会館

第6回：3月10日（木）午後1時30分～3時 東海大学校友会館

(7) 事務局報告 事務局長 緒方信康

・今年度も経済環境が厳しい状況が続いたが例年とおりの研究討論会、研究会、講習会に加え国際シンポジウムを開催した。開催回数12回、開催日数16日であり参加者数は後半になって前年を上回り、回復基調が見られる。

・2010年4月1日に法人登記され、法人化に伴う経理システムの更新など法人化移行作業を順次実施した。

・学会誌の発行部数は会員数の増減に連動し、毎号1700-1600部前後であり、年6回、編集委員会→印刷会社→発送会社経由で発行されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管

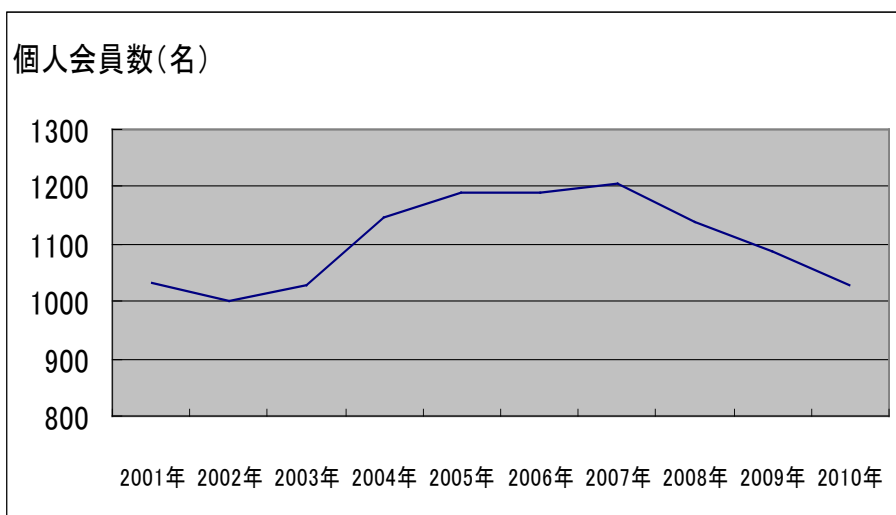
理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。

- ・今年度から Web 経由システムの導入を開始し、総会の出欠回答/議案投票システム及び国際シンポジウムの参加登録システムの2件を導入した。
- ・理事会、各種委員会・部会の開催件数は例年同様、年間 80 件以上で活発な議論が交わされている。

○年度別個人会員数の推移

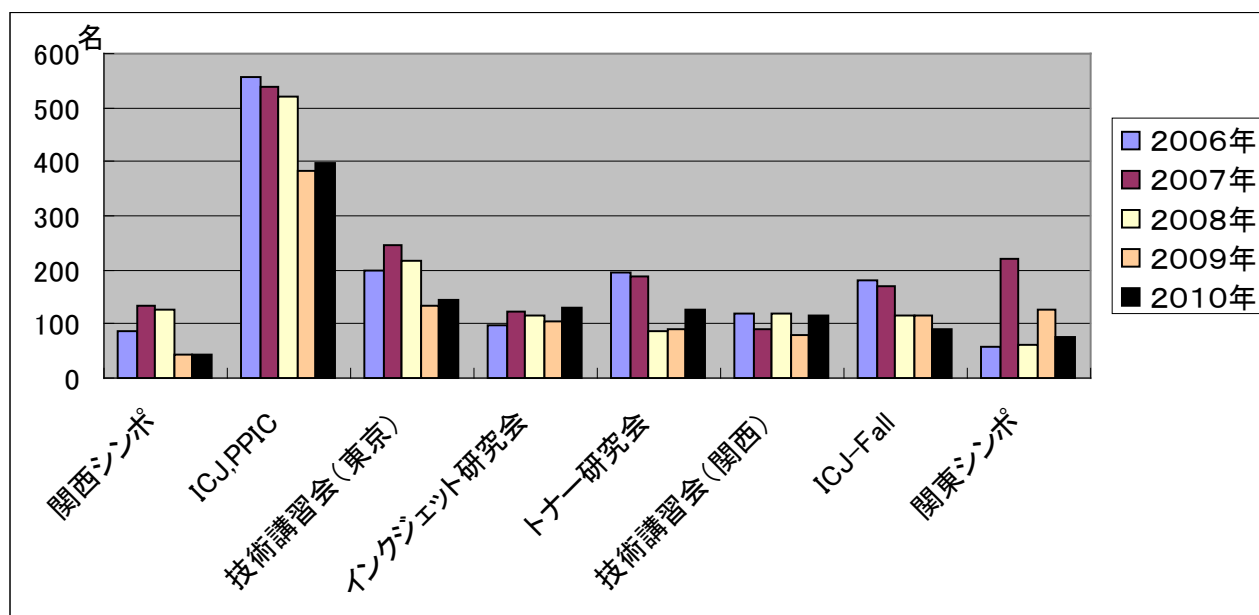
2001 年度～2010 年度末までの会員数推移を下記に示す。2008 年度末の落ち込みが回復されていない。

年度	個人会員数
2001	1034
2002	1001
2003	1029
2004	1147
2005	1188
2006	1190
2007	1206
2008	1137
2009	1087
2010	1027



○学会の主なイベント参加者推移

2006 年度～2010 年度の当学会が主催する年次大会、研究会、講習会など、主なイベントの参加者推移を示す。参加者数は 2010 年後半から増加傾向にあり、2010 年度は 2009 年度実績を 3%程度上回った。



(8) 編集委員会 委員長 竹内達夫(キヤノン)

編集委員会開催 6 回 (内 1 回は年間編集計画の為、合宿を開催), フリートーキング” Imaging Today” 開催 2 回, 学会誌年 6 冊定時発行, 本年度より年 6 冊の学会誌発行に合わせて誌面構成会議を編集委員会の間の月に開催 2010 年度は 8 月より開始し 3 回開催. 新企画として「研究室訪問」を掲載開始, また, 188 号より先端技術シーズを取り上げる特集として「Advanced Technology」シリーズを開始.

183 号 (Vol. 49, No. 1) 2 月刊, 65 頁, 巻頭言 (会長), 一般論文 2 件, Imaging Today「印刷へ向かう記録技術」, 教育講座「色彩工学の基礎 (I)」, 委員会活動報告, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

184 号 (Vol. 49, No. 2) 4 月刊, 85 頁, 一般論文 2 件, Imaging Today「電子写真現像技術」, 教育講座「色彩工学の基礎 (II)」, 研究室訪問「日本工業大学 北久保研究室, 大阪府立大学 内藤研究室」, 委員会活動報告, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

185 号 (Vol. 49, No. 3) 6 月刊, 83 頁, 一般論文 1 件, Imaging Today「最新のシミュレーション技術」, 教育講座「色彩工学の基礎 (III)」, 研究室訪問「東京工業大学 半那研究室」 委員会活動報告, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

186 号 (Vol. 49, No. 4) 8 月刊, 146 頁, 巻頭言(会長就任にあたって), 一般論文 2 件, 解説論文 1 件, Imaging Today「これから紙ーデジタル化と環境社会に向けてー」, 教育講座「色彩工学の基礎 (IV)」, 研究室訪問「大阪府立大学 汐崎研究室」, 2008 年度学会表彰, 一般社団法人日本画像学会第 53 回定時総会資料, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

187 号 (Vol. 49, No. 5) 10 月刊, 99 頁, 一般論文 2 件, Imaging Today「広がるインクジェット技術」, 資料 2 件, 教育講座「色彩工学の基礎 (V)」, 研究室訪問「東海大学 面谷研究室」, 委員会活動報告, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

188 号 (Vol. 49, No. 6) 12 月刊, 76 頁, 一般論文 2 件, Advanced Technology「高分子フォトニクス」, 教育講座「レオロジー入門 I」, 研究室訪問「京都大学 松坂研究室」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

第 17 回フリートーキング” Imaging Today” 「銀塩写真なんか怖くない?」, 2010 年 4 月 23 日 (金) に、東京工業大学すずかけホール(横浜市)参加者 43 名

第 18 回フリートーキング” Imaging Today” 「電子写真現像技術」, 2010 年 10 月 29 日 (金) 開催, 東京工業大学すずかけホール (横浜市), 参加者 76 名

(9) 技術委員会 委員長 面谷信 (東海大学)

1. 技術委員会全体の活動状況

- (1) 2008 年度よりの委員長 面谷信、副委員長 木村正利の体制を、2010 年度も継続。
- (2) 2010 年 11 月 15 日 (木) に第 1 回主査会議を開催し、役員研修会で提起された技

術委員会関連の課題等について議論を行った。2010年度は、2011年1月28日(金)(技術委員会総会と同日)に第2回目の主査会議を開催した。

- (3) 年一度の総会は、委員全員が顔を合わせ交流する場および各部会開催の機会として2010年度は2011年1月28日(金)に開催した。
- (4) 部会活動についての会員への情報提供を目的とし、学会誌に各部会報告を毎号1部会ずつ掲載し、2年間で全部会の一巡を予定する計画に対し、遅れ気味ではあるが、電子ペーパー部会、サーマル記録技術部会、シミュレーション技術部会の報告までを2010年度中に掲載した。
- (5) 各研究会・シンポジウムにおいて、論文形式とスライド形式の予稿が混在している現状にあることに関して、スライド画面ではない講演概要を第1ページ(※)として付加することを、新たに発表者に義務づけることを2008年度に決め、2009年度実施の研究会で実行開始し、2010年度もすべての研究会等にて統一実施中である。これは将来、研究会予稿の電子化(Web掲載)を行う場合、少なくとも上記第1ページのみはJSTにて掲載を保証されることを狙うものである(この第1ページの掲載により第1ページの付加資料としてスライド画面をも掲載される見込み)。
- (6) 2010年4月～2011年3月の間にシンポジウム1回(電子写真技術部会担当)、技術研究会2回(インクジェット技術部会:第108回、トナー技術部会:第109回)国際会議1件(電子ペーパー部会)および画像4学会合同研究会(画像処理部会)を開催。

2. 各部会の活動状況

1) 画像評価技術部会(旧第1部会)

- ・ 3回の部会を開催しテストチャートの修正作業等について審議した。
- ・ テストチャート No.5: 2008 の解説書修正作業を完了した(頒布可能であるが旧版在庫の調整中)。
- ・ ICJ 2010にてWork Shop「画像評価関係の標準化動向と新たなニーズ」を下記のように開催(2010年6月10日)した。

司会 : イントロ(斉藤 恵)

Topic 1 : SC28 オフィス機器における画像関連の国際標準化動向(伊藤 哲也)

Topic 2 : 印刷分野の画質に係る標準化動向(ト部 仁)

Topic 3 : 写真プリントの画像評価に関する国際規格の動向(井出 収)

開催概要 : 司会より画質/画像評価に係る国際規格団体の構成図、規格開発の手順、期間について説明し、予稿に従って、3つのトピックスをプレゼし、参加者との質疑、要望などを聴取した。参加者の多くの目的は情報収集にあったが、意見や質問、要望を聴くことが出来、また、異なる国際標準化組織からの画像関連規格についての提供情報に対する参加者の満足度も高かった。

- ・ ICJ2010Fallで部会として下記発表を行った。

題名: o-11 デジタルチャート No.7 の設計概要と画像評価結果

(井出 収、駒崎 岳夫、岸本 康成)

- ・ 前記発表を学会誌第49巻第6号:484-490(2010)に掲載した。
- ・ ICJ2011 Work Shop テーマ案として「テストチャートの新しいニーズを探る」を提案

した。

- ・ Twilight WS のテーマ案 として「画質評価チュートリアル」第1回目 画質構造と画質評価を総合的、体系的に説明し、ニーズを調査、第2回目以降 ニーズに従って、持ち回りで講師を担当する (No.7 チャートを利用してのカラーマネージメント講座も開催可能) との開催案を提案した。
- 2) 電子写真技術部会 (旧第2部会)
- ・ 定例会会を7回、シンポジウム企画会議を1回、企画合宿 (千葉大の北村研究室を訪問) を1回開催した。
 - ・ 日本画像学会シンポジウム「紙と紙出力のアイデンティティ～これからの電子写真装置と紙との関係～」(12月3日、於：発明会館)を企画・開催した。
- 3) トナー技術部会 (旧第3部会)
- ・ 定例会議を5回、産学交流会議、合宿会議、及び研究会を各1回開催。
 - ・ 新規標準キャリア (P-02) の頒布を開始した。
 - ・ 標準キャリアの頒布促進策として、2つのセット価格を設定し頒布を開始した。
4セット+1 (4セット購入の場合4セット価格で+1セットを無料追加)
標準キャリアお試しセット (各標準キャリア：125g×4種の少量セットで1セット)
 - ・ 産学交流会議を日本工業大学で7月に開催した。内容としては、日本工業大学の工業技術博物館の見学、落雷実験の見学、学生に向けて「電子写真技術」の基礎と技術開発に必要な知識に関する講演と質疑応答形式での技術交流を行った。
 - ・ 「高付加価値トナー&トナー特性の基礎」をテーマとした研究会を2010年10月20日に開催した。
- 4) 画像処理技術部会 (旧第4部会)
- ・ 部会を3回開催し、主に画像4学会合同研究会のテーマ検討を行った。
 - ・ 画像4学会合同研究会「新しい光源と画像再現技術—LED光源を中心として—」を幹事学会として開催した。今回のテーマは画像処理部会内では一昨年くらいから候補として上げられ講師の選定がネックであったが、今回各学会の協力で、実現することができた。時期を得た企画であったこともあり、有料参加者74名と4学会研究会としては盛況であった。今回はやや広めのテーマ設定であったため、一部には演色性や照明利用等に絞ったさらに詳しい内容を希望する専門家もいた。その他のテーマ候補としては、HDR(ハイダイナミックレンジ)画像や入力系を利用した処理、デジタルモックアップ、ソフトコピー等があり、今後、4学会やワークショップへ反映させていく。
- 5) 画像技術用語部会 (旧第5部会)
- ・ 4回のメール会議、1回の実会議を開催し用語集の改訂について審議した。
 - ・ 2011年10月に「画像技術用語集」の改訂版を出版する予定で改訂準備作業を進めた。
- 6) インクジェット技術部会 (旧第6部会)
- ・ 定例会会を6回開催した。
 - ・ 技術研究会『インクジェットヘッド技術徹底研究 ～今再び原点に立ち返り、インクジェットの未来を探る～』を開催した。パネルディスカッションを実施し、講演者からの一方的な情報提供だけでなく、参加者とともにこのテーマを議論することを狙った。また、講演者の所属する会社のみならず、主要メーカーのインクジェットヘッドの仕様や特徴をまとめたパネルを作成し(全15枚)、会場に展示し、より深い議論ができるよう工夫をした。予稿集はインクジェットによるカラー化を実施するとともに、電子データをCD-Rに収め、

紙の予稿集とともに配布した。アンケートの結果、満足度は93%であり、パネルディスカッションを毎回実施して欲しいという声も半数あった。

- ・ 合宿研修会を三菱製紙八戸工場見学を兼ねて2010年12月3日(金)~4日(土)に実施した。1日目は工場見学(普通紙抄紙工程)および産業用インクジェット用紙の動向と取組について三菱製紙(木村さん)からの講演聴講と議論、2日目は部会会合(技術研究会テーマ、ICJ2011でのWS、およびImaging Caféにおけるテーマ検討)を行った。
- ・ 2011年度の技術研究会は9月22日(木)を予定する。

7) 電子ペーパー部会 (旧第7部会)

- ・ 2011年11月10-11日、(ISEP2010; International Symposium Electronic Paper)を日経BP社の協力を得て(FPD Internationalと同時開催)幕張メッセにてDF部会と共同開催した。有料参加者137名(海外30名を含む)、講師(実行委員兼任も含む)17名(海外8名を含む)、参加した実行委員(講師兼任で無い人)14名(海外は0人)、総計168人(海外38人含む)であり、海外からの参加者多く、国際会議らしい会議として開催できた。
- ・ 定例部会(5回開催)、合宿(東北大学・内田研究室;液晶技術見学)を実施。
- ・ 次期部会課題について議論し、電子ペーパー部会のこの10年を振り返り総括し2011年11月の研究会で発表する計画を策定した。

8) サーマル記録技術部会 (旧第8部会)

- ・ 技術委員会総会開催時の他に定例部会を1回と、大日本印刷五反田事業所にてショールーム見学と合わせた持ち回り部会1回(12月8日)の計3回実施した。
- ・ 部会では、眞島様@マジマ研究所の新規参加および富士フイルムの委員交代(五十嵐→寺嶋様)の紹介、主査会議の討議内容の紹介、次回研究会のテーマに関する議論などを実施し、ICJ2011WSへ立候補することを合議した。また、主査交代(五十嵐→寺尾様)が了承された。
- ・ H22年度は研究会およびWS等の開催ができなかったが、H23年度はICJ2011のWSに立候補を予定し、サーマル記録方式の今までの開発、淘汰の歴史を振り返り、サーマル記録の本質的特長を描きだし、将来に向けた展望、これから取り組むべき技術・市場を議論すべく予定講師候補まで議論を行い、ICJ2011で採択されなかった場合には、研究会として実施の検討を行う方針とした。
- ・ 上記とは別に、「今の時代におけるハードコピーの存在価値」「2Dの画像で3Dの表現がどこまで可能か」「サーマル記録技術に関する新しい熱源の可能性」「人間は画像をどう見て、どう判断しているのか」などの研究会のテーマ検討を行い、継続して実行の可能性を模索する方針を策定した。

9) イメージング材料部会 (旧第9部会)

前身の「感光体における光・物理現象に関する研究会」からスタートした第9部会発足当初から、当学会のメイン材料分野である感光体に関する研究が減少し、実用化に向けた長寿化が開発の中心に移行して行った。そのため当研究会としてイメージング材料としての感光体材料研究の総括に固守し、2008.12に第2部会と合同で開催した画像学会シンポジウム第2部として「感光体材料開発の現状とその新規電子デバイスへの展開」と題するシンポジウムを開催し、感光体材料としての総括を行った後、結果として部会、研究会の企画運営等ができていないが、第9部会のミッションにもとづく新しい方向の模索を継続する。

10) シミュレーション技術部会（旧第10部会）

- ・ イメージングプロセスに関わるシミュレーション技術の動向探索と啓蒙活動を通して、シミュレーション技術の活性化を目指すことを部会ミッションとして活動を進め、部会を4回開催した。
- ・ 2010年夏の第69回技術講習会(7/15)にてシミュレーション実習を実施し14人の参加者を集め、95%以上の方から好意的な参加アンケート回答を得た。
- ・ ICJ2010 WS4（6/11）“3次元可視化技術で電子写真シミュレーションはどうか変わるか？”を開催。スタッフ12名、参加者14名。サイバネットシステム社とクリスティ・デジタル・システムズ社の協力のもとで、シミュレーション結果を表示するための3次元可視化技術（立体視）をとりあげました。トナー挙動シミュレーションの3次元映像を上映しながら解説を行い、立体視メガネで映像を眺めながら、討議を行った。上映する事例が多数あり、議論時間は不十分だったが、アンケートでは、今後のこの分野への期待を感じさせられる結果となった。
- ・ 画像学会誌 部会紹介記事を執筆し、187号に掲載された。

11) デジタルファブ리케이션部会

- ・ 第1回部会を10月18日 NIP26/DF2010 期間中にオースチンで実施、第2回部会は技術委員会総会の日（1月28日）に開催し、ワークショップ開催案、ISEP2010、ICFPEへの協力等について議論を行った。
- ・ ICJ2010 ワークショップを2010年6月11日(金)AM10:30~12:00に「日本におけるプリンテッドエレクトロニクスの実用化加速-このままでは、また、韓国、台湾の後塵を拝することになる-どうすれば良いか」をテーマに設定して、プリンテッドエレクトロニクス分野で活躍されている11名に参加をお願いし、日本画像学会より、委員5名、一般参加者6名の合計22名で議論をおこなった。
- ・ ISEP2010 電子ペーパー国際シンポジウム（2010年11月10日-11日）の開催に、部会委員全員が実行委員として参加し、企画・運営に協力した。

12) 画像感性部会

- ・ ICJ2010でWorkshop「人間の感性に訴える画像表現を考える」を実施した。課題提起を篠原浩一郎氏（東工大）、大原佳也氏（富士フイルム）、岩本康平氏（セイコーエプソン）の3氏をお願いし、定員を上回る23名（発表者含む）の参加があった。萌芽期の技術であり、分野も多岐にわたることから、設定された時間を大幅にオーバーする議論が交わされ、結局、画像の観察者が見たいと(潜在的・顕在的に)抱いている画像をどれだけストレートに再現できるかに「感動」がかかっているのではないかと一致した。特に、ハードコピー技術を、現実の3次元情報をどれだけリアリティー（感動）をもって2次元に落とせるかと定義した場合、2次元に落とすプロセスは撮像（キャプチャリング）で行うべきなのか、プリンティングで行うべきなのか、あるいは、その中間段階で実施すべきのかなど議論が盛り上がったが、いずれかに正解があるわけではなく、ワンクリックでそのような操作が実現できることは当面無いだろうとの意見が大勢を占めた。ICJ2011でも継続したWSができないかの検討、サーマル記録技術部会との連携も模索中である。
- ・ メンバーの多数が他の技術部会の主査あるいは主要メンバーであるため、部会開催が難しくメールによる情報交換、意見集約で前記ICJ2010でのWorkshop企画・準備を進めた。

(10) コンファレンス委員会 委員長 阿部隆夫 (信州大)

- ・2010年6月9日(水)、10日(木)、11日(金)の3日間、きゅりあん・品川区立総合区民会館(東京都品川区東大井5-18-1)において、“Imaging Conference JAPAN 2010”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第105回)]を開催した。本会は、コニカミノルタホールディングス(株)が幹事会社として運営にあたった。実行委員長は杉山高司氏。
- ・コンファレンス委員会は次の構成で活動した。
委員長：阿部隆夫(信州大)、委員：大西 勝(ミマキエンジニアリング)、木村正利(富士ゼロックス)、竹内達夫(キヤノン)、中山喜萬(大阪大)、平倉浩治(リコー)、深瀬康司(信州大学)。
- ・2011年6月6日(月)、7日(火)、8日(水)きゅりあん・品川区立総合区民会館(東京都品川区東大井5-18-1)で開催予定の“Imaging Conference JAPAN 2011”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第107回)]はキヤノン(株)に幹事をお願いした。実行委員会が組織され、開催に向けた準備を遂行中である(委員長：キヤノン(株)里村博氏、副委員長：キヤノン(株)竹内達夫氏および中島一浩氏)。
- ・“Imaging Conference JAPAN 2012”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第109回)]の企画・運営について富士ゼロックス(株)をお願いすることに決定した。

(11) 事業委員会 委員長 上原康博 (富士ゼロックス)

- ・標準キャリア(担当：トナー技術部会)は12月よりP-02頒布を開始し、セット購入時に割引される新セット価格頒布を12月より開始した。
- ・昨年に引き続き、学会ホームページから試験標準品購入の案内が検索しづらいとの声があり、今後、改良して対応する。
- ・テストチャート(担当：画像評価技術部会)に関してはNO.4が最も頒布数が多く、次いでNO.6、スクリーンゲージ、NO.7...という順である。

[協賛依頼]

○2010年

- ・画像電子学会 Advanced Imaging Seminar 2010 4月21日 日本科学未来館
- ・色材協会関西支部 色材セミナー 5月14日 大阪科学技術センター
- ・日本機械学会 第22回シンポジウム 5月19-21日 門司港ホテル
- ・日本印刷学会 第1回P&I研究会シンポジウム 5月21日 日本印刷会館
- ・品質工学会 第18回品質工学研究発表大会 6月7-8日 きゅりあん
- ・日本写真学会 第7回日本写真学会光機能材料セミナー 6月23日 東京工業大学
- ・色材協会関西支部 色材分散講座 7月7日 大阪科学技術センター
- ・日本印刷学会 日本印刷学会 第4回 夏期セミナー 7月16日 日本印刷会館
- ・高分子学会 2010年度印刷・情報記録・表示研究会基礎講座 7月23日 東京大学・弥生講堂
- ・日本印刷学会 2010年度第2回P&I研究会シンポジウム 8月3日 凸版印刷・印刷博物館
- ・色材協会関西支部 第43回塗料講座 8月4-5日 大阪科学技術センター
- ・色材協会 第52回顔料入門講座 9月2,3,9,10日 千葉工業大学 津田沼校舎
- ・静電気学会 第34回静電気学会全国大会 9月14-15日 鳥取大学 工学部
- ・IS&T NIP26,DF2010 9月19-23日 Austin, Texas, USA
- ・画像電子学会 第34回秋期セミナー 10月5日 早稲田大学西早稲田キャンパス

- ・電子情報通信学会 第3回フレキシブルディスプレイシンポジウム 10月9日 幕張メッセ
- ・色材協会関西支部 色材講演会 10月13日 大阪科学技術センター
- ・日本印刷学会 2010年度第3回P&I研究会シンポジウム 10月14日 日本印刷会館
- ・日本ゴム協会 第166回ゴム技術シンポジウム 11月5日 東京電業会館
- ・日経BP社 FPD International 2010 11月10-12日 幕張メッセ・国際展示場
- ・色材協会 第35回顔料物性講座 11月19日 東京塗料会館
- ・日本写真学会 第18回カメラ技術セミナー 11月19日 発明会館
- ・映像情報メディア学会SID 日本支部 IDW '10 12月1-3日 福岡国際会議場
- ・色材協会 第7回色材IT講座 12月2日 日本大学理工学部・駿河台
- ・画像4学会 2010年度画像4学会合同研究会 12月15日 日本印刷会館
- ・日本液体微粒化学会/日本エネルギー学会 第19回微粒化シンポジウム 12月21-22日 日本大学理工学部・駿河台

○ 2011年

- ・光学五学会 第44回光学五学会関西支部連合講演会 1月29日 大阪市立大学文化交流センター
- ・色材協会 第20回顔料分散講座 2月4日 東京塗料会館
- ・高分子学会 2010年度印刷・情報記録・表示研究会講座 2月14日 東京大学弥生講堂
- ・日本印刷学会 第7回「紙メディア」シンポジウム 3月4日 日本印刷会館
- ・モバイル学会 シンポジウム「モバイル'11」 3月10-11日 筑波大学 総合研究棟B

(12) 運営委員会 委員長 中居仁司 (ブラザー工業)

- ・学会活動の年間予定の作成、年6回の理事会の準備・議事進行・議事録作成・発行、年次総会・評議員会の準備・運営など、本学会活動の運営全般を推進した。
- ・緒方事務局長や金澤事務補佐員ら実務サポート役と連携し、学会の実務的な運営を進めた。また、事務局の体制として2011年2月度理事会にて、鈴木弘治編集幹事の事務局次長就任と、2011年3月度で退職予定の金澤事務補佐委員の後任者に西原事務補佐員の採用を提案し承認された。2011年度3月度から事務局はこの体制で実働していただいている。
- ・役員研修会として2010年8月30日(月)、富士ゼロックス横浜みなとみらい事業所会議室を借用し、全役員にて、①学会活性化(研究討論会でのワークショップの在り方)、②学会活性化(投稿論文数の増加策)、③学会長期ビジョンと目指すべき技術方向性、④国際交流や海外他学会連携について(特にアジア地域との連携)の4テーマにて話し合った。役員研修会の成果として、新規に次の企画を実行に移すことが第3回理事会で承認され、夫々活動を開始した。
 - ・①研究討論会でのワークショップの拡大策として「Twilight Work Shop(別称イメージングカフェ)」を新規に開催(月1回程度、平日夕方に開催予定)。企画委員会を中心に2011年からの実施を検討中。
 - ・②本学会の目指すべき技術方向性を検討する「学会ビジョン委員会」を本学会役員を中心にメンバーとして発足させ、学会として将来ビジョン、アカデミアロードマップの作成を開始している。
- ・広報委員会、事務局と共に、総会出欠連絡のweb経由での電子化、および、総会議案毎の電子投票化を図り、第53回総会にて実施した。その結果、会員数の42%にあたる406名の個人会員がweb経由で出欠回答と電子的投票を行った。ハガキ回答での出欠連絡も併用したため、委

任分も含めると 651 名（総会出席資格者の 67.7%）の出席者を集めることができ、従来のハガキだけの回答率（概ね 50～55%）より格段に増加した。

- ・更に 2011 年度からは会員データの web 管理化を導入しつつある。Web ページから会員情報の登録をすることで、個人会員宛にはイベント開催案内の自動送付や、入退会事務処理、会費支払い確認等の自動化が行え会員サービス性と事務効率の向上が図られる予定である。

(13) 財務委員会報告 委員長 岡 建樹

(コニカミノルタビジネステクノロジーズ)

- ・ 2009 年度収支決算および 2010 年度予算の作成を行った。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、総会にて 2009 年度決算および 2010 年度予算の承認を得た。
- ・ 2010 年度予算は、次のような方針で立案した。通常収支として収支均衡を目指す。学会の基礎となる会員費収入予算は減額しない。ICJ や講習会の収入はここ数年の実績を考慮して決める。支出は実績ベースで予算化する。
- ・ 法人化に伴い、今年度から会計処理規程に則って中間決算を行い、会計士によるチェックと監事による監査を受けた後に理事会に報告して承認を得た。
- ・ 上期末の状況と下期の事業計画をもとに修正予算を作成し、理事会の承認を得た。年度末の状況としては、修正予算に対して約 40 万円収支が改善しているが、全体としては約 200 万円の赤字の収支決算である。

(14) 国際交流委員会 委員長 半那純一（東工大）

- ・ 米国 画像学会主催、本学会共催の NIP26 : International Conference on Digital Printing Technologies (NIP)、Digital Fabrication (DF) (2010 年 9 月 19 日～9 月 23 日、Austin, 米国) の開催に協力した。
- ・ 本年度、理事研修会で議論された画像学会の国際化、アジア諸国の関連学会との国際交流の促進を具体化するため、日韓画像学会の交流再開の準備 および、アジア諸国での画像関連学会の活動状況の調査を開始した。

(15) 広報委員会 委員長 長山智男（リコー）

- ・ 広報委員会では、会員への情報サービス提供活動として、日本画像学会のホームページ (URL : <http://www.isj-imaging.org/isj.html>) の継続的な管理運営を行った。特に本年度は、運営体制を体系化し、ホームページ管理者に加えて更新担当を設置することで、更新作業の円滑化を図った。1997 年に開設して以来、460000 件を超えるアクセス数となっている (2011 年 2 月現在)。
- ・ 学会事務局の運營業務 IT 化活動として、本年度総会 (2010 年 6 月開催) における「Web サイトを用いた総会出欠確認システム」の導入への協力を行った。

(16) 選奨委員会 委員長 内藤裕義（大阪府大）

- ・ 選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞、および、日本画像学会コニカミノルタ研究賞について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し理事会に推薦した。

(17) 企画委員会 委員長 酒井真理 (セイコーエプソン)

個人会員向け新サービスとして、サイエンスカフェ形式の交流空間『イメージングカフェ』を提案し2011年度より実施する運びとなった。2011年2月より月1回、夕方2時間、魅力ある講師を招き、イメージング技術を身近に感じ会員同士の会話が弾む機会を提供する予定である。フロンティアセミナーに関しては、ビジョン委員会によるフロンティアテーマの方向付けを受けて具体的企画策定を行うこととし、本年度は検討を実施しなかった。

(18) 法人化検討委員会 委員長 佐藤利文 (東京工芸大学)

- ・2006年5月に「公益法人制度改革」法案成立に伴い、2007年5月から「法人化検討WG」にて、当学会での法人化による会員サービス向上や法人化によるメリット・デメリット等を検討開始する。
- ・2008年3月、「評議員会」にて、当学会の法人化に向けた取組みを検討中である旨を報告する。
- ・2008年6月、「総会」にて、当学会の法人化に向けた取組みを検討中である旨を報告する。
- ・2008年8月、「法人化検討WG」→「法人化検討委員会」を設置、理事会にて承認され、法人法改正、定款の変更、収支計算書、登記手続き等本格的に法人化に向けた調査・取組みを開始する。
- ・2009年3月、「評議員会」にて、当学会の「一般社団法人（非営利）」に登記の提案を行う。
- ・2009年6月、「総会」にて、一般社団法人日本画像学会定款案が承認される。
- ・2010年2月、一般社団法人日本画像学会設立総会を開催する。
- ・2010年4月、一般社団法人日本画像学会登記完了。法人成立日2010年4月1日。

(19) 関西委員会 委員長 北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

関西シンポジウム2010

2010年5月21日(金)、メルパルク京都(京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-13)において、シンポジウム「画像技術を環境負荷と付加価値で斬るー環境にやさしい次世代画像技術ー」を開催した。6名のパネラーによる個別講演の後、会場からの質問を交えたパネルディスカッションを行った。参加者は42名(前年42名100%)。

【プログラム】

- ・実行委員長挨拶 伊藤 昇(コニカミルタビジネステクノロジーズ株式会社)
- ・情報メディアと環境負荷 平倉 浩治(株式会社リコー)
- ・インクジェット:可能性と限界から環境を考える 藤井 雅彦(富士ゼロックス株式会社)
- ・電子ペーパー表示の市場応用と環境 水川 繁光(株式会社インダ)
- ・紙づくりと森林保全 丸山 泰弘(王子製紙株式会社)
- ・半導体製造における地球温暖化対策の実態と事例 見方 裕一(株式会社東芝)
- ・液晶ディスプレイの高性能化と低消費電力化 吉田 育弘(シャープ株式会社)
- ・パネルディスカッション

「画像技術を環境負荷と付加価値で斬るー環境にやさしい次世代画像技術ー」

パネラー： 平倉 浩治(株式会社リコー)
藤井 雅彦(富士ゼロックス株式会社)
水川 繁光(株式会社イシダ)
丸山 泰弘(王子製紙株式会社)
見方 裕一(株式会社東芝)
吉田 育弘(シャープ株式会社)

司会： 倉本 信一(株式会社リコー)

・日本画像学会 関西委員会 委員長挨拶 北岡 義隆(パナソニックシステムネットワークス株式会社)

第 70 回 技術講習会

2010年11月25日(木)、メルパルク京都(京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676-13)にて、関西委員会企画運営による第70回技術講習会「最新の高画質・高信頼電子写真プロセス～転写・定着からクリーニングまでの課題～」を開催し、一昨年日本画像学会が50周年記念として発刊した『電子写真』の著者の方々に講義を行っていただいた。講演件数は5件で、参加者91名が受講した(対前年度 +16名)。

【プログラム】

- ・実行委員長挨拶 山崎 征人(花王株式会社)
1. 転写プロセスにおける高画質化 酒向 峰行(コニカミルタビジネステクノロジー株式会社)
 2. 高速定着技術 三矢 輝章(株式会社リコー)
 3. 省エネ定着技術 大塚 康正(キヤノン株式会社)
 4. 低温定着トナー 白井 英治(花王株式会社)
 5. クリーニング技術の基礎と動向 小笠原 正(富士ゼロックス株式会社)
- ・日本画像学会 関西委員会 委員長挨拶 北岡 義隆(パナソニックシステムネットワークス株式会社)

Imaging Conference JAPAN 2010 Fall Meeting (第106回研究討論会)

2010年11月26日(金)、メルパルク京都(京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676-13)にて、Imaging Conference Japan 2010 Fall Meeting を開催した。技術賞受賞記念講演1件、一般口頭発表11件、ポスターセッション13件の発表があり、参加者は92名(前年115名80%)であった。プログラムは巻末に記載(付録2)。

(20) 特別講演会

2011年3月10日東海大学校友会館で評議員会の後、東京電気大学出版局局長、植村八潮氏により「電子書籍の動向と将来市場」ー電子書籍端末とブームの行方ー』と題しての特別講演会を開催した。

(21) 技術研究会

● 2010年10月8日(金) 日本化学会 化学会館ホール(東京都千代田区神田駿河台1-5)にてインクジェット技術部会企画の2010年度第1回日本画像学会技術研究会(通算第108回)を開催した。参加者129名(会員:100, 非会員:28, 学生:1)。

テーマ 『インクジェットヘッド技術徹底研究』

～今再び原点に立ち返り、インクジェットの未来を探る～

【プログラム】

0. インクジェットヘッド技術の進化軸(導入部) 藤井 雅彦 (インクジェット技術部会)
 1. 「キヤノンにおけるインクジェットヘッド技術」 中島 一浩 (キヤノン株式会社)
 2. 「コニカミノルタ IJ におけるインクジェットヘッド技術」
渡辺 英生 (コニカミノルタ IJ 株式会社)
 3. 「セイコーエプソンにおけるインクジェットヘッド技術」
細野 聡 (セイコーエプソン株式会社)
 4. 「ソニーにおけるインクジェットヘッド技術」 狩野 真之 (ソニー株式会社)
 5. 「パナソニックにおけるインクジェットヘッド技術」
渡邊 修 (パナソニックシステムネットワークス株式会社)
 6. 「ブラザー工業におけるインクジェットヘッド技術」 菅原 宏人 (ブラザー工業株式会社)
 7. 「リコーにおけるインクジェットヘッド技術」 飛田 悟 (株式会社リコー)
- パネルディスカッション:「ヘッドの進化とインクジェットの方向性など」

● 2010年10月20日(月)虎の門『発明会館』(東京都港区虎の門2-9-14)にて、トナー技術部会企画で2010年度第2回日本画像学会技術研究会(通算第109回)を開催した。参加者126名(会員94名、非会員28名、学生4名:講師と委員の16名と報道2名は除外)。

テーマ『高付加価値トナー&トナー特性の基礎』

【プログラム】

トナー特性の基礎

- ① レオロジー特性の基礎と活用 : 五十野 善信 (長岡技術科学大学)
- ② Phylogenic (fumed) metal oxides-nanostructured materials
: M.Heinemann (Wacker Chemie AG)
- ③ 新規標準キャリア及び標準キャリアによる帯電特性評価 : 多田 達也 (トナー技術部会)

高付加価値トナー

- ④ バイオマストナー : 小番 昭宏 (リコー)
- ⑤ 消色可能トナー : 関口 裕実子 (東芝)
- ⑥ Canon における粉砕トナーの高付加価値戦略[~]V・Vクリア : 板倉 隆行 (キヤノン)
- ⑦ E A - E c o トナー : 大門 克己 (富士ゼロックス)

● 2010年12月15日(水)日本印刷会館201-203会議室(東京都中央区新富1-16-8)にて、画像4学会合同研究会(2010年度幹事学会は日本画像学会)を開催した。

画像4学会合同研究会詳細は(24)の項に記載。

(22) シンポジウム

● 2010年12月3日(金) 発明会館(東京都港区虎ノ門2-9-14)にて技術委員会電子写真技術部会(旧第2部会)企画・運営によるシンポジウムを開催した。

【題目】「紙と紙出力のアイデンティティ ~これからの電子写真装置と紙との関係~」

【参加者】93名(会員66名、非会員4名、学生3名、報道等3名、講師7名、委員10名)

【講演内容】

第1部:紙出力の意義とは

- 1、感性優位の時代における知性的メディアの復権 職業能力開発総合大学 大野 邦夫
- 2、紙を見直す: 環境負荷・作業効率の観点からの紙と電子メディア
富士ゼロックス株式会社 柴田 博仁
- 3、電子ペーパーの動向と期待する将来像 JBMIA 電子ペーパーコンソーシアム 服部 仁

第2部:紙と紙出力の現状と将来

- 4、紙物性の基礎:電子写真方式の印刷品質に影響する紙の特性について 東京大学 江前 敏晴
- 5、特殊紙開発の現状と出力装置への要望 特種東海製紙株式会社 毛利 豊寿
- 6、富士ゼロックス Color1000/800 搭載高速カラー定着システム 富士ゼロックス株式会社 岡林 康人
- 7、コニカミノルタ bizhub PRESS C8000 における用紙対応技術
コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社 徳武 直人

● 関西シンポジウムについては(19) 関西委員会の項に記載

(23) 技術講習会開催報告 事業委員長 上原康博(富士ゼロックス)

① 第69回技術講習会

2010年7月15日(木)、16日(金)の両日、コクヨホール(東京港区)にて、第69回技術講習会を開催した。今年サブタイトルを「画像技術の基礎と将来」とし、これから画像技術に取り組む若手技術者に対する成長機会の提供とベテラン技術者に関しても技術全般を棚卸し整理する有意義な場となることを狙いとして28名の各方面で活躍されている講師の方をお招きして講演を頂いた。1日目に大ホールにて初心者の方を対象とした「入門講習」を設け、これから画像技術に取組まれる方へ基礎から分かり易く解説することで、大変分かり易く有意義との評価を頂くことができた。また多目的ホールでの画像機器に関連の深い話題を解説する「画像関連技術一般講習」と、大変好評の「電子写真シミュレーション実習講習」も合わせて実施した。3会場を使った初日は参加される方の多様な要望に応えることのできる内容となった。

2日目は分野を「電子写真関連講習」と「インクジェット、及び新規技術関連講習」に分け、2つのホールで開催し、より詳細な解説を最新のトピックスを交えながら講義することで詳細な知見の習得と最新技術動向が俯瞰出来るようにプログラムを構成した。

会場内スペースを使った展示会は昨年の7社から今年は2社増加し、合計9社(富士フィルム株式会社様、山本通産株式会社様、株式会社フォトロン様、C i l a イメージングエキスパート株式会社様、旭光精工株式会社様、株式会社フローテック・リサーチ様、コニカミノルタセンシング株式会社様、株式会社日本ローパー様、トレックジャパン株式会社様)のご参加を頂いた。

有料参加者数は143名(会員・維持会員125名、非会員14名、学生4名)となり、世界的不況の影響を受けた前年度より10名増加したが、過去6年平均200名に対し参加者数は28%減となった。2011年度は経済動向を見ながら参加者数確保と支出抑制の検討が必要である。

1日目 第1会場(コクヨホール) <<入門講習>>

1. インクジェット技術入門 竹内 寛 コニカミノルタ IJ (株)
2. インクジェット液滴の観察、計測、解析入門 山口 修一 (株)マイクロジェット
3. 画像関連材料の技術評価入門と展示技術の紹介 山崎 弘 コニカミノルタ
ビジネステクノロジー株式会社(株)

展示参加各社

- | | | |
|---|--------|---------------------------|
| 4. 電子写真プロセス基礎技術入門 | 今井 力 | (株)リコー |
| 5. 紙の基本特性とその製造方法 | 小林 孝男 | 王子製紙(株) |
| 1日目 第2会場(多目的ホール) <画像関連技術一般講習> | | |
| 6. 環境に配慮した企業活動 | 秋山 裕之 | 富士ゼロックス(株) |
| 7. デジタルプリンティング市場 | 三矢 輝章 | (株)リコー |
| 8. デジタルファブリケーション-イメージング技術の製造への応用 | 酒井 真理 | セイコーエプソン(株) |
| 9. 画像処理の基盤技術について | 長橋 宏 | 東京工業大学 |
| 10. 画像と視覚-形状知覚、運動知覚、色覚 | 吉澤 達也 | 金沢工業大 |
| 1日目 第3会場(3Fセミナー室) <<電子写真シミュレーション実演実習>> | | |
| 11. イントロダクション | 川本 広行 | 早稲田大学 |
| 12. ポアソン方程式、熱伝導方程式の物理的な意味 | 栗林 夏城 | (株)リコー |
| 13. スプレッドシートによるお手軽電界計算(定常問題) | 仲野 正雄 | キヤノン(株) |
| 14. 有限差分法による定着プロセスの熱伝導計算(非定常問題) | 伊藤 朋之 | 富士ゼロックス(株) |
| 2日目 第1会場(コクヨホール) <電子写真関連講習> | | |
| 15. 電子写真プロセスの画像安定化技術 | 大木 誠 | キヤノン(株) |
| 16. 電子写真現像剤の基礎知識 | 粕谷 貴重 | キヤノン(株) |
| 17. 電子写真感光体の基礎と動向 | 早田 裕文 | コニカミノルタ
ビジネステクノロジーズ(株) |
| 18. ペーパーハンドリング技術概論 | 池田 太郎 | キヤノン(株) |
| 19. 転写プロセス技術の基礎 | 青木 信次 | (株)リコー |
| 20. 電子写真方式における定着技術の動向について | 浜田 純一 | コニカミノルタ
ビジネステクノロジーズ(株) |
| 2日目 第2会場(多目的ホール) <インクジェット及び新規技術関連講習> | | |
| 21. 電子ペーパーの技術と展望 | 高橋 達見 | 大日本印刷(株) |
| 22. 熱記録技術の基礎と「1パスフルカラー記録技術」ZINK™ | 寺尾 博年 | アルプス電気(株) |
| 23. 高速度カメラを用いたプリンターの可視化事例 | 檜垣 尚志 | (株)フォトロン |
| | 佐々木 剛史 | |
| 24. 最新の粉体物性評価技術
(粒子径分布、卓上SEM、比表面積、ゼータ電位) | 佐藤 浩二 | 日機装(株) |
| 25. インクジェットヘッド概論 | 中島 一浩 | キヤノン(株) |
| 26. インクジェットプリンタ用インク技術の動向 | 林 広子 | セイコーエプソン(株) |
| 27. ライン型インクジェットの高速度化技術 | 中山 幸治 | 理想科学工業(株) |

技術講習会実行委員会

委員長 奥田 幸一 (キヤノン)

委員 中里 保史 ((株)リコー)、 山崎 弘 (コニカミノルタビジネステクノロジーズ)、
水野 恒雄 (水野国際特許商標事務所)、 原田 正明 (富士ゼロックス)、

萬道 律雄（王子製紙）、 半那 純一（東工大）、 黒須 久雄（リコー）、
吉澤 孝一（セイコーエプソン）、 和田 光央（三菱化学）、 吉田 稔（東芝テック）、
笠間 稔（富士ゼロックス）

事業委員長 上原 康博（富士ゼロックス） 事業委員 小川 格（三菱化学）
電子写真シミュレーション実演講習は、技術委員会旧第 10 部会との共同開催

② 第 70 回技術講習会は（19）関西委員会の項に記載。

(24) 画像4学会合同研究会

2010 年 12 月 15 日（月）に日本印刷会館（東京）にて、四学会（(一社)日本画像学会、(社)日本印刷学会、(社)日本写真学会、(一社)画像電子学会）共催の「新しい光源と画像再現技術－LED 光源を中心として－」をテーマとした研究会を開催した。

有料参加者 74 名（会員 58 名、非会員 9 名、学生 7 名）、講師、報道、幹事含め 91 名。

テーマ 「新しい光源と画像再現技術」 - LED 光源を中心として -

【プログラム】

1. 「LED 照明と演色性」 東芝ライテック(株) 小谷 朋子
2. 「白色 LED 光源を用いたカラーキャナーの技術開発」 富士ゼロックスアドバンステクノロジー(株) 竹内 英夫、野田 聡
3. 「画像の色評価用光源としての LED 利用と色再現への影響」 凸版印刷(株) 三橋 徹
4. 「多原色ディスプレイの広色再現技術」 シャープ(株) 富沢 一成 他
5. 「LED 光源超小型プロジェクターを搭載したデジタルカメラ」 (株)ニコン 後藤 孝夫

(25) ISEP 2010 開催報告

ISEP (International Symposium on Electronic Paper) 2010 を 2010 年 11 月 10-11 日の 2 日間、幕張メッセにて開催した。本シンポジウムは電子書籍・電子新聞等の新市場を開拓するキー技術として期待を集める電子ペーパー技術およびそれを支えることが期待されるデジタルファブリケーション技術について、世界の主要企業・組織・大学からキーパーソンを招いて講演頂き、最新技術と今後の応用・発展について議論を深める場として電子ペーパー部会とデジタルファブリケーション部会が共同で企画・運営し、電子ペーパーに特化した国際会議としては世界で初めて開催された。企画・運営は北村孝司実行委員長（千葉大学）、面谷信副実行委員長（東海大学）、堀田吉彦副実行委員長（電子ペーパー部会主査、リコー）、酒井真理（DF 部会主査、セイコーエプソン）、鈴木明プログラム委員長（リコー）をはじめ国内外の 22 人の実行委員（前田秀一、雨宮功、有澤宏、植田秀昭、大野信吾、佐野隆之、鈴木薫、川瀬健夫、藤田郁夫、小田正明、染谷隆夫、鈴木幸栄、西眞一、藤井雅彦、桑田良輔、G. F. Zhou, Nam-Seok Roh）が担当した。有料参加者 135 名（会員 88 名、非会員 47 名）、無料参加者 32 名（講師 14 名、講師兼実行委員 4 名、実行委員 14 名）、総計 167 名（学生 15 名を含む）という多くの参加者を得ることができたことは、タイムリーなテーマ設定と充実した講師陣に加え、共催団体として日経 BP 社の全面的な協力を得て、同社の主催する FPD International 2010 (Flat Panel Display 国際展示会・講演会：2010 年 11 月 10-12 日開催)と開催場所および会場を同じくする形で開催したことが功を

奏したと考えられる。なお、ISEP 2010 では紙の予稿集は作成せず、参加者には CD 版の予稿集を配布すると同時に、電子ペーパー予稿集の実証実験としてブラザー工業(株)の協力を得て 30 台の電子ペーパー予稿集端末を用意し (ブラザードキュメントビューワを 20 台とアマゾン Kindle DX-3 を 10 台)、希望者 53 人に使用頂き概ね好評を得た。このような実証実験は学会の場でも電子ペーパーを使うようになるきっかけとして期待される。

Program of International Symposium on Electronic Paper 2010

1st Day November 10, Wednesday (Room 201, International Conference Hall)

12:00- Registration

12:50-13:00 **Opening Remark: Takashi Kitamura (Chiba University)**

Time	Title	Speaker	Affiliation
< Session 1 : Applications I >			
13:00-13:30	A-1. e-Paper & e-Publishing, Today & Future Trend	Ryosuke Kuwada	PFE (JPN)
< Session 2 : Frontplane Technologies I >			
13:30-14:00	FP-1. Modeling of Electrowetting Displays	Johan Feenstra	Liquavista (NL)
14:00-14:30	FP-2. Mirasol ^R Displays Revolutionize The Capabilities of E-reading Devices	William Cummings	Qualcomm MEMS Technologies (USA)
14:30-15:00	FP-3. Digital Micro Shutter Technology for Color and Video Capable E-paper displays	Jignesh Gandhi	Pixtronix (USA)
15:00-15:30	FP-4. Color Electronic Paper Based on Cholesteric Liquid Crystal	Tsuneo Watanuki	Fujitsu Laboratories (JPN)
15:30-16:00	Coffee Break		
< Session 3 : Backplane Technologies I >			
16:00-16:30	BP-1. Flexible OLED and EPD Driven by Organic TFTs	Kazumasa Nomoto	Sony (JPN)
16:30-17:00	BP-2. Printed Organic TFT with High Operating Voltages for Active-Matrix Driven Electronic Papers	Hiroki Maeda	Dai Nippon Printing, CREST JST (JPN)
17:00-17:30	BP-3. All-printed Organic TFT Backplanes for Flexible Electronic Paper	Koei Suzuki	Ricoh (JPN)

2nd Day November 11, Thursday (Room 201, International Conference Hall)

9:30 - Registration

Time	Title	Speaker	Affiliation
< Session 4 : Frontplane Technologies II >			
10:00-10:30	FP-5. E Ink Technology: Enabling the Transition from Paper to e-Paper	Michael D. McCreary	E Ink (JPN)
10:30-11:00	FP-6. Electronic Paper QR-LPD by using Electronic Liquid Powder	Yoshitomo Masuda	Bridgestone (JPN)
11:00-11:30	FP-7. Polymer Microparticle Dispersions for Transmissive and Reflective Full Colour Electrophoretic Display Applications	Mark Goulding	Merck Chemicals (UK)
11:30-12:00	FP-8. Technology and Market of Thermal Rewritable Marking	Yoshihiko Hotta	Ricoh (JPN)
12:00-13:30	Lunch Break		
13:30-15:00	FPD Keynote: “ New Age News Media on the E-reading Platforms” By Stig Nordqvist, WAN-IFRA (International Conference Hall)		
< Session 5 : Applications II >			
15:00-15:30	A-2.Smart-Phone, Tablet & e-Paper Reader. What kind of Device or Function are essential from Contents Provider View Point ?	Hitoshi Koide	E-Book Japan (JPN)
15:30-16:00	A-3. Growth Together in E-Paper Business	Hui Lee	Delta Electronics (TW)
16:00-16:30	Coffee Break		
< Session 6 : Backplane Technologies II >			
16:30-17:00	BP-4. Low Temperature Amorphous Silicon TFT Reliability for e-Paper	Nam-Seok Roh	Samsung Electronics (KR)
17:00-17:30	BP-5. Printable TFT Technologies for Electronic Paper	Osamu Kina	Toppan Printing (JPN)
17:30-18:00	BP-6. The E-paper Technology Development in E ink Holdings	Ted Hong Shinn	E Ink Holdings (TW)

18:00-18:10 **Closing Remark: Makoto Omodani (Tokai University)**